

筑波大学新聞

第378号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699

E-mail
shinbun@
un.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

「固定化した社会を変革する」 永田学長インタビュー



本紙の単独インタビューを受ける永田学長
(8月2日、本部棟で) = 修其志撮影

筑波大は今年10月1日で開学50周年を迎える。国際性や学際性を建学の理念に掲げ、学生が所属する組織と教員が所属する組織を分ける「教・教分離システム」を他大に先駆けて採用するなど、国内外に開かれた新構想大学として歩んできた。本紙は開学50周年に合わせて永田学長にインタビューし、建学の理念の達成度合いや今後の展望などについて聞いた。

永田学長は2013年4月、18年と20年の学長選挙を経て、第9代学長に就任。14回会議で再選出され、この10年間で本紙にインタビューを受けた。学際性については「早くから開かれていた」としつつ、文系・理系が同じ学群に集まっていたナンバークラスの廃止(07年)を「個人的には残念だ」とし、「学士課程教育は作り直さないといけない」と語った。

また、建学の理念で残された課題として「固定化した社会の変革」を挙げ、「東京一極集中や大学ランキングなど固定化された社会を変えるのは次の50年。そうしない限り筑波大が完成したことはない」と今後を展望した。

森 (体専2年) パリ五輪内定第1号

スポーツクライミング複合で

スポーツクライミングの世界選手権が8月11〜12日、スイスのベルンで開催された。森彩選手(体専2年)は11日のボルダー・リードの女子複合決勝で3位に入り、来年のパリ五輪出場が内定した。同競技の日本代表内定第1号で、筑波大生のパリ五輪出場内定も初めてとなる。

森選手は前半のボルダーで6位と出遅れたが、後半のリードで1位となり、逆転で銅メダルを獲得した。また森選手は、6日に行われた非五輪種目のリードの女子決勝に出場し、初優勝した。日本人選手のリード種目で世界選手権制覇は男女を通じて初めて。スポーツクライミングの世界

選手権で日本の女子選手が金メダルを獲得するのも初めてとなる快挙だった。森選手はパリ五輪内定について「うれしさの反面、プレッシャーもあるが、楽しむことを忘れずに優勝を目指したい」と語った。(久玉佳純II比較文化学類3年、18面に関連記事)



パリ五輪出場が内定し、笑顔を見せる森 = 本人提供

注目記事

- 1TF・F事業始動
- 学生運営のバー 新店長決定
- ポケモン・石原社長に聞く
- 鶴澤 世界陸上準決勝進出
- 世界水泳AS 佐藤姉弟優勝

19 18 17 3 2

筑波大は2023年10月1日、開学50周年、創基151年を迎えます。これを記念し、特集号をお届けします。

50周年特集企画目次

5面 永田恭介学長インタビュー

「未来をつくるのは人だ」

記者の「声」 学生が作る筑波大の歴史

6面 川上真生・本紙副編集長

筑波時評「改革」求め続ける大学

中野目徹教授

7面 「学際性」に支えられる筑波大の研究

「失敗は成功の元」白川英樹名誉教授に聞く

つくばハピネスライフ研究

8・9面 筑波大の教員組織「系」の全貌に迫る

10・11面 写真と年表で振り返る筑波大50年の歩み

12面 「つくばマップ」42年の歴史

13面 筑波大を支えた店主ら 座談会

▽CLARET▽井上サイクル▽古着屋MPH
▽平野国美さん▽中島光夫さん▽原啓一郎さん

14面 スポーツ界をけん引する卒業生 座談会

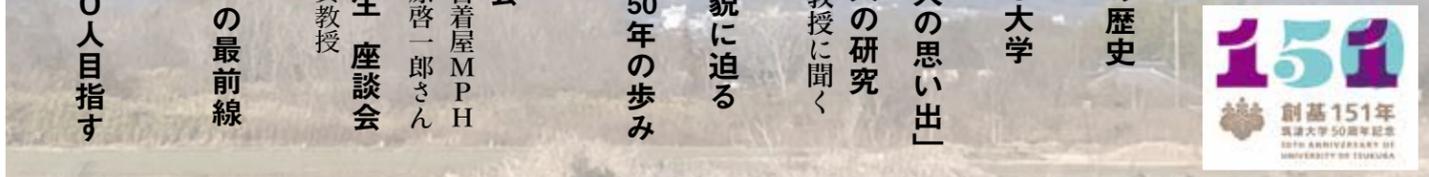
▽田嶋幸三氏▽三屋裕子氏▽尾縣貢教授
▽山口香教授▽司会・清水諭教授

15面 スポーツ科学「研究」「実践」の最前線

▽三笠薫選手▽安藤梢助教
▽川村卓准教授▽征矢英昭教授

16面 30年までに外国人学生5000人を目指す

筑波大 グローバル化の取り組み



9月30日と10月1日
記念式典・イベント
白川英樹名誉教授が講演
卒業生ら相次ぎ登場

筑波大は10月1日、開学50周年を迎える。創基151年筑波大学開学50周年記念式典は9月30日(土)は国際会議場(つくば市竹園)で、同記念イベント「DESIGN THE FUTURE Marche」は10月1日(日)筑波キャンパスで行われる。

「筑波お話し」
「いけるー!」もう少しだ。各校の応援団の声がプールサイドにこだまする。4年ぶりに声出し解禁された今年9月の競泳日本学生選手権。会場の熱気に圧倒された。これまでの大学生活に欠けていた光景がそこにあった。コロナ禍まっただ中の2021年に入学し、一人でオンライン授業を受ける日々。もともと人と話すのが苦手な、「ひきこもり」生活は性に合っていた。そんな自分を変えたのが、本紙編集部での活動だった。「人手が足りなくて」と誘われて昨春秋に入部した。初仕事は、筑波大学学際祭(雙峰祭)の来場者の話を聞く取材。「あの人は忙しいぞ」「あの人はなんか怖そう」。勇気を振り絞って声を掛けた女子学生が快く取材を受けてくれ、最後に「頑張ってください」と一言。心が温かくなり、これからやっていけそうな気がした。今では「記事を書くより取材にいきたい」と思うほどの話を聞くのが好きだ。夏休み、開学50周年特集号の年表企画担当となり、49年分の過去紙にらめこじした。著名人に取材する他の部員に比べ、地味な作業をしていると、むしろなる。だが、いつの間にか、時を忘れて記事の内容に没頭していた。「〇〇が五輪で金」という見出しだけ見ても面白くない。その選手の「生の声」があるからこそ面白いのだと気が付いた。記者生活2度目の雙峰祭まであと1カ月余り。これからも、紙面で「生の声」をできるだけ届けたい。

(青野心平II第2類1年、17面に関連記事)で確認できる。

グロビ夏祭りで盆踊り 盆LIVE実行委員会が企画運営



輪になって炭坑節を踊る参加者(7月26日、グローバルヴィレッジ) =シダス・ボーダン撮影

留学生と日本人学生の交流を目的とした「グローバルヴィレッジ夏祭り」が7月26日、4年ぶりに開かれた。会場のグローバルヴィレッジ中庭には延べ約3000人の学生が訪れ、うちわ作りや浴衣の着脱体験、盆踊りなど日本の伝統的な夏祭りの雰囲気を楽しんだ。

盆踊りは筑波大の学生生活で3年ぶりに活動を再開し、企画・運営した。同実行委員会の代表として、盆LIVE実行委員会が「来年度以降の盆LIVE」を企画・運営した。同実行委員会は、盆踊りイベント「TIACT」の一環として同実行委員会が毎年9月、つくば市の研究学園駅前公園を会場に開催してきた。

盆踊りイベント「TIACT」の一環として同実行委員会が毎年9月、つくば市の研究学園駅前公園を会場に開催してきた。伝統的な民謡に加え、J-POPや洋楽などにも合わせて盆踊りを楽しむのが特色で、19年には約1100人が訪れた。コロナ禍のため、同実行委員は20年度途中から活動を中止していたが、今年6月から活動を再開し、新規メンバーの募集などを始めた。

グロビ夏祭りでは、前半・後半とも30分ずつ盆踊りをした。後半の部では約80人が参加し、盆踊りイベント「TIACT」の一環として同実行委員会が毎年9月、つくば市の研究学園駅前公園を会場に開催してきた。

文化系サークル会館(文サ館)1階と2階の共用スペースに9月8日、気化式冷風機(縦47cm、横45cm)が設置された。高さが2.2m、それぞれ1台ずつ設置された。文化系サークル連合会(文サ連)が、前年から「冷房設備を設置してほしい」と要望していた。

文サ館1階と2階の共用スペースに9月8日、気化式冷風機(縦47cm、横45cm)が設置された。高さが2.2m、それぞれ1台ずつ設置された。文化系サークル連合会(文サ連)が、前年から「冷房設備を設置してほしい」と要望していた。



気化式冷風機を試運転する学生ら(9月8日、文化系サークル会館) =衣笠有紀撮影

このため夏場は建物内に熱がこもり、熱中症の危険を避けるため、館内での活動を見送る課外活動団体もあったという。

学生生活課と交渉を続けてきた文サ連の運営委員長、時長隆乃介さん(物理2年)は今年8月、エアコンの性能は劣るものの、設置費用が安く消費電力も抑えられる気化式冷風機の設置を提案していた。

E開催に向けた足掛かりになった」と話している。盆LIVEは、つくばに住む人々の交流の場を作ろうと、2015年に始まった盆踊りイベント「TIACT」の一環として同実行委員会が毎年9月、つくば市の研究学園駅前公園を会場に開催してきた。

盆踊りイベント「TIACT」の一環として同実行委員会が毎年9月、つくば市の研究学園駅前公園を会場に開催してきた。

文化系サークル会館(文サ館)1階と2階の共用スペースに9月8日、気化式冷風機(縦47cm、横45cm)が設置された。



寺尾優汰さん(カザフスタン)が馬に乗る様子(7月28日、Trigger店内) =久玉佳純撮影

寺尾優汰さん(カザフスタン)が馬に乗る様子(7月28日、Trigger店内) =久玉佳純撮影

Triggerは米田さんのカクテルが多く並ぶなど、店員それぞれの個性を生かして営業している。口コミを中心に筑波大生のファンも順調に増えていき、今年2月以降、世代交代など今後の運営を巡って店員が議論を重ねてきた。6月まで店員だった石川舞都さん(国際4年)が「より多くの学生に店を知ってもらい、きっかけになる」と、「Next Trigger」の最終審査のお題は「Trigger」開催を提案した。

石川さんは店員たちの了解を得、筑波大生11人による店長選挙チームを結成。4月に特設サイトで「Next Trigger」開催を告知し、4人の筑波大生がオーディションに応募した。5月の面接、6月の接客ロールプレイング審査を経て、次期店長候補は島田さん(含む2人)に絞られた。

島田さんは最終審査を振り返り、「SNSで交流があったものの、対面でも話さない人も多かった。面接で話したことで、お互いの個性を知ることができた」と話している。また、「お客さんには別け隔てなく接し、気軽にいれるお店にしたい」と意気込んだ。

寺尾優汰さん(カザフスタン)が馬に乗る様子(7月28日、Trigger店内) =久玉佳純撮影

寺尾優汰さん(カザフスタン)が馬に乗る様子(7月28日、Trigger店内) =久玉佳純撮影



寺尾優汰さん(カザフスタン)が馬に乗る様子(7月28日、Trigger店内) =久玉佳純撮影

寺尾優汰さん(カザフスタン)が馬に乗る様子(7月28日、Trigger店内) =久玉佳純撮影

Triggerは米田さんのカクテルが多く並ぶなど、店員それぞれの個性を生かして営業している。口コミを中心に筑波大生のファンも順調に増えていき、今年2月以降、世代交代など今後の運営を巡って店員が議論を重ねてきた。6月まで店員だった石川舞都さん(国際4年)が「より多くの学生に店を知ってもらい、きっかけになる」と、「Next Trigger」の最終審査のお題は「Trigger」開催を提案した。

石川さんは店員たちの了解を得、筑波大生11人による店長選挙チームを結成。4月に特設サイトで「Next Trigger」開催を告知し、4人の筑波大生がオーディションに応募した。5月の面接、6月の接客ロールプレイング審査を経て、次期店長候補は島田さん(含む2人)に絞られた。

島田さんは最終審査を振り返り、「SNSで交流があったものの、対面でも話さない人も多かった。面接で話したことで、お互いの個性を知ることができた」と話している。また、「お客さんには別け隔てなく接し、気軽にいれるお店にしたい」と意気込んだ。

寺尾優汰さん(カザフスタン)が馬に乗る様子(7月28日、Trigger店内) =久玉佳純撮影

寺尾優汰さん(カザフスタン)が馬に乗る様子(7月28日、Trigger店内) =久玉佳純撮影



寺尾優汰さん(カザフスタン)が馬に乗る様子(7月28日、Trigger店内) =久玉佳純撮影

寺尾優汰さん(カザフスタン)が馬に乗る様子(7月28日、Trigger店内) =久玉佳純撮影

オーディションで新店長 「誰もが来やすいお店に」

学生運営バー Trigger



笑顔で接客する新店長の島田さん(7月28日、Trigger店内) =久玉佳純撮影

「い」と語ると、店内は拍手で包まれた。次期店長の発表は8月18日、インスタグラムでライブ配信された。名前を呼ばれた島田さんは「自分が選ばれるとは思っていません」と驚きを語った。

石川さんは、島田さんを選んだ理由を「店長への意欲が高く、店長になることで彼自身も成長できると思った」と話した。

島田さんは最終審査を振り返り、「SNSで交流があったものの、対面でも話さない人も多かった。面接で話したことで、お互いの個性を知ることができた」と話している。また、「お客さんには別け隔てなく接し、気軽にいれるお店にしたい」と意気込んだ。

世界の教室から

寺尾優汰さん(カザフスタン)が馬に乗る様子(7月28日、Trigger店内) =久玉佳純撮影



寺尾優汰さん(カザフスタン)が馬に乗る様子(7月28日、Trigger店内) =久玉佳純撮影

寺尾優汰さん(カザフスタン)が馬に乗る様子(7月28日、Trigger店内) =久玉佳純撮影

日本と中央アジアの懸け橋に

一方で、日本が学ぶことも多いと感じます。カザフスタンは見た目も母語も違う多民族を抱え、国民統合に苦慮しています。人口減少時代を迎える中、日本が移民を受け入れていくのか。その姿は日本の未来にも重なります。

足りない部分を助け合いて補う当事者意識も印象的です。バリアフリー設備はまだまだ充実していませんが、困っている人を見ると、カザフ人は無言で即座に助けに動きまわります。心のバリアフリーは日本より早く社会に浸透しているようです。

日本と中央アジアとの関係は、成長する市場への投資増加などで密接になっていくと想定されます。残り半年の留学期間、できるだけ文化や言語を学び、日本と中央アジアの懸け橋となる人材になることを目指しています。

まつりつくば 4年ぶり 筑波大生もねぶた引く



ねぶたを担ぐ筑波大生(8月26日、つくば市吾妻で) = 高元愛香撮影

つくば市最大の夏祭り「まつりつくば2023」が8月26、27日につくば駅周辺で開かれた。開催は4年ぶり、40回目。県道土浦学園線が繰り広げられたパレードでは、ねぶた10基や日本最大級の「万灯神輿」も運行。2日間で延べ約48万人が訪れた。
(シダス・ポーターII人文学類2年、高元愛香、20面に関連写真)



2日目の万灯神輿 = 柴原徹さん提供

フォーム姿の筑波大運動部員ら約30人もねぶたの引き手として登場。歩道にねぶたを寄せてゆくりと傾けると、観客から歓声が上がった。
YOSAKOIソランを踊る筑波大の学生団体「斬桐舞」も出演し、息の合った踊りを披露した。
1981年に始まり、今年つくば市の夏の風物詩となったまつりつくば。青森市の青森ねぶた祭と同サイズの大きなねぶたの運行が話題を呼び、例年約45万人を動員してきたが、コロナ禍で2020年から中止になっていた。
パレードに登場したねぶたのうち4基が大ねぶたで、高さ約3.5m、引き時の高さ約5.3m。今年は大ねぶたの運行が話題を呼び、例年約45万人を動員してきたが、コロナ禍で2020年から中止になっていた。
神輿は初日、つくば市内の9地区がそれぞれ運行した。2日目は約1500のちようちんが掲げられた「万灯神輿」(幅約4m、高さ約4m)をつくば神輿連合と茨城神輿連合が運行した。筑波山をイメージしてちようちんが配置されており、約400人の担ぎ手が約600mのルートで3時間かけて練り歩いた。
つくば神輿連合の柴原徹事務局長は「4年ぶりの実施で準備や当日の運行に苦労したが、無事に開催できてほっとした。神輿の運行を通じ、各地区やつくば市を今後も盛り上げたい」と話した。

文科系修士棟で盗撮行為 4月に続き筑波キャンパスで

文科系修士棟の女子トイレで7月16日(日)に盗撮行為が発生した。今年4月には文化系サクル会館の女子トイレでも盗撮行為が起きており、学生生活課は「2日間とも大ねぶたの運行で指示役を務めた青山翔龍さん(地規4年)は「笑顔で手を振る子どもたちを見られたことがうれしかった。これからも地域が一つになれるお祭りであってほしい」と話した。

同課によると、日曜日だった同日午後4時半ごろ、同棟4階の女子トイレを使用していた女子学生が、個室の上に黒いスマートフォンが置かれているのに気付いた。スマホは犯人と思われる者によって直後に回収された。女子学生は個室にいたため犯人を自撃していない。女子学生は警察に通報し、同日には被害届を出した。
キャンパス内の建物は、学外者も含めて自由に出入りできるものが多いが、今回の事態を踏まえ、リスク・安全管理課は「学生や教職員の安全確保のため、人が少ない休日や夜間などは建物ごとの入室管理の在り方を検討する必要がある」としている。(吉川 穂)

えがおカフェ 菓子など販売 附属大塚特別支援学校生の手作り



商品を手渡す附属大塚特別支援学校の生徒ら = 同支援学校提供

筑波大附属大塚特別支援学校高等部(東京都文京区)の生徒たちが手作りの菓子類や雑貨を販売する「えがおカフェ」が7月5日、3A棟食堂で開かれた。会場にはシフォンケーキや蜂蜜プリンなど6種類の菓子類が並び、生徒8人がその日の制服で商品説明や会計、袋詰めを担当した。1500〜2500円と価格も手頃で、計120個を売り上げた。
(山本貴世II国際総合学類1年、衣笠有紀)

同特別支援学校は知的障害がある幼児、児童、生徒や職業体験の一環として、2015年から始まった。焼き上げ、商品化までを担当する。全て国産材料を使い、卵は筑波大附属坂戸高校農場産だ。年に10回程度開かれ、生徒たちが人の役に立つ経験を積み、さまざまな人と交流する場となっている。
通常は東京

キャンパス(同)が会場となるが、今回は創設15周年筑波大学開学50周年記念事業の一環で、筑波キャンパスで開かれた。
菓子類と一緒に販売されたトートバッグやコーヒー消臭剤も生徒たちの手作りだった。トートバッグは学校周辺の米屋から米袋を消費剤はコンビニエンスストアからコーヒー豆のかすを譲り受けて製品化したアップサイクル品だ。商品説明などの接客を担当した生徒は「話すのは苦手がが頑張った」と笑顔で語った。
教育情報システム「TWIN」イベントを知り、来場した障害科学類4年の女子学生は「附属学校の子どもたちと関わることはなかなかない。交流できてうれしかった」と話した。
同カフェは今後、大学会館で10月1日に、5C棟で12月6日にそれぞれ開かれる(いずれも午前11時から午後2時まで)。

宿舍洗濯機料金 200円に コインシャワーは100円維持

グローバルウィレッジ以外の学生宿舍の洗濯機利用料金が8月1日、従来の1回100円から200円に値上げされた。現在のシステムが導入された2010年以降、洗濯機利用料金の値上げは初めて。一方、7月に告知されていた宿舍のコインシャワー利用料金は1回100円のまま据え置かれた。

グローバルウィレッジ以外の学生宿舍の洗濯機利用料金が8月1日、従来の1回100円から200円に値上げされた。現在のシステムが導入された2010年以降、洗濯機利用料金の値上げは初めて。一方、7月に告知されていた宿舍のコインシャワー利用料金は1回100円のまま据え置かれた。

同課の担当者は「キャンパス周辺のコインランドリーの洗濯機利用料金を調べたところ、最安値が200円だった。値上げはやむを得ないと判断した」と話している。
一方、宿舍のコインシャワーの運営は、二下(本社・同中野区)に委託されている。

グローバルウィレッジ以外の宿舍の洗濯機の利用料金は、水道光熱費や維持管理費用を負担する代わりに、利用料金を収益として回収している。
同課によれば、昨年11月以降、機器の入れ替え費用が40%上昇、人件費も21年以降で2.2倍になった。これらに光熱費の上昇なども重なったため、学生生活課に利用料金の改定を申し入れ、了承を得たという。

梅ちゃん先生の
What is ダイバーシティ?

梅田恵 教授
ヒューマンエンバウメント推進局(BHE)教授。2023年1月より現職。日本では珍しいダイバーシティの専門職として複数のグローバル企業で15年以上のキャリアがある。

**受け継がれる
嘉納治五郎の精神**
筑波大には「開かれた大学」として多様な人材を受け入れ、活躍を支援してきた歴史があり、前身の師範学校は日本初



嘉納治五郎像と写真を撮る新入生(4月5日、大会館前) = 高元愛香撮影

の教育者を育成する学校として1872年に開学。85年には政府の財政難から存続が危ぶまれた東京女子師範学校を統合し、女子部(後のお茶の水女子大)を開校。女性が教師になる道を守りました。障害者支援では、1908年に附属小学校に特別学級を設け、40年に傷痍軍人向け教員養成コースを開始しています。
今日に続く筑波大のダイバーシティは、1893年から

嘉納先生が遺した「精力善用」「自他共栄」とは、「他人をねじ伏せることに自分の能力を使うのではなく、世の中を善くするために使いたい。互いに信頼し、助け合うことができれば自分も世の中の人と共に栄えることができる」という教えであり、筑波大の目指すインクルーシブな大学の在りようです。



50周年特集号

永田恭介学長に聞く

「未来をつくるのは人だ」

学長インタビュー詳細(聞き手:高元愛香、加藤緑、写真は青野心平、本部長:8月2日)

現代社会に不断に対応

開学から50年。筑波大が上げた成果と現状をどう評価しているか。

開学当初から掲げてきた国際性と学際性は、数十数年でようやく推進された。国際部(現国際局)ができたのは国立大では恐らく初めて。組織的にも目に見える形になった。

学際研究については、白川英樹名誉教授のノーベル賞受賞や産学連携研究の発展からも、実りを実感している。

ただ、個人的に残念なのは、ナノバニヤ群がなくなっただけ。そのような存在が、日本でも、世界でも求められている。学士課程教育は作り直さないといけないかなと思っている。

建学の理念の中で全く手をつけられてこなかったのが「固定化」された社会に対する不満を新構想で解くこと。それがなければ、筑波大が完成したことにはならない。次の50年で、東京一極集中や大学ランキングといった概念を崩したい。

その概念を信じてやってきた結果、科学技術力で世界に置いて行かれ、日本経済は停滞してしまっただけ。筑波大にこれから求められることは、過去に作った制度に固執しない柔軟さだ。その時々に適したシステムを開発し、切り替えてきた。改革には失敗が伴うこともあるが、建学の理念にもある「変動的な現

代社会への不断の対応」は出資した。また、地域の

自然に生まれる学際研究

学際研究の今後の在り方をどう考えるか。

学際研究は意図して作るものではなく、自然と生ま

るもの。ロボットの「ツ」HAIを開発した山海嘉之教授(シス情系)が、いい例だ。彼は上学者だが、医学の助けがなければ、絶対に行けない。

問題解決には、もはや理系も文系も関係ない時代になっている。必要に応じてさまざまな分野の人が手を組んで研究できるよう、分野を越えて研究の話ができる環境作りが重要だ。

国際卓越研究大学制度をどう評価しているか。政府が基金を設けて、研究にお金を出すことになったことは評価したい。政府は2020年度の補正予算でいきなり5000億円を出資した。また、地域の

中核大学や特定の研究分野に強みを持つ大学の支援制度も始まり、政府は2000億円の予算を計上した。研究にこのような大きな予算が措置されるのは日本の歴史で初めてだ。

筑波大もこの制度に応募し、今回は残念な結果だった。これは、日本の大学の海外分枝として初めてだ。

マレーシア海外分枝は、どんな学校になるのか。日本の大学でも海外に進出したケースはあるが、これまでは現地の学位しか出せていない。マレーシア海外分枝では、日本の、つまり筑波大の学位が出る。

今年7月の定例記者会見で入試改革に触れた。「面接や小論文重視へ」との報道もあったが、これから留学生の比率がどんどん高くなっていく。だから、留学生も日本の学生も、同じ試験をするようにしたい。また、少子化で日本の子供の数は減っていく。偏差値で学生をふるわないで、新しい個性を見いだせるような入試をやりたい。大学全体のレベルが上がっていく。だから入試改革をしたい。



◇永田恭介(ながた・きょうすけ)氏 筑波大学長、国立大学協会会長。1953年生まれ。76年東京大薬学部卒。同大薬学系研究科博士課程修了。薬学博士。専門は分子生物学、ウィルス学。国立遺伝学研究所助手、東京工業大助教などを経て、2001年筑波大教授。13年4月から筑波大学長。19年6月から国大協会

教育研究の国際化に貢献できたいと思う。

筑波大は今年10月で開学50周年。開学100周年を迎えた筑波大はどうなっているのか。50年後の後輩たちにはどんなメッセージを送りたいか。中央図書館前などで筑波大生に聞いた。(横山心咲||比較文化学類1年、衣笠有紀||心理学類3年、加藤緑||生物学類2年、新田早紀||生物資源学類3年、大吉ひなた||人文学位プログラム1年)

50年後の筑波大

筑波大は今年10月で開学50周年。開学100周年を迎えた筑波大はどうなっているのか。50年後の後輩たちにはどんなメッセージを送りたいか。中央図書館前などで筑波大生に聞いた。(横山心咲||比較文化学類1年、衣笠有紀||心理学類3年、加藤緑||生物学類2年、新田早紀||生物資源学類3年、大吉ひなた||人文学位プログラム1年)

筑波大は今年10月で開学50周年。開学100周年を迎えた筑波大はどうなっているのか。50年後の後輩たちにはどんなメッセージを送りたいか。中央図書館前などで筑波大生に聞いた。(横山心咲||比較文化学類1年、衣笠有紀||心理学類3年、加藤緑||生物学類2年、新田早紀||生物資源学類3年、大吉ひなた||人文学位プログラム1年)

筑波大は今年10月で開学50周年。開学100周年を迎えた筑波大はどうなっているのか。50年後の後輩たちにはどんなメッセージを送りたいか。中央図書館前などで筑波大生に聞いた。(横山心咲||比較文化学類1年、衣笠有紀||心理学類3年、加藤緑||生物学類2年、新田早紀||生物資源学類3年、大吉ひなた||人文学位プログラム1年)

筑波大は今年10月で開学50周年。開学100周年を迎えた筑波大はどうなっているのか。50年後の後輩たちにはどんなメッセージを送りたいか。中央図書館前などで筑波大生に聞いた。(横山心咲||比較文化学類1年、衣笠有紀||心理学類3年、加藤緑||生物学類2年、新田早紀||生物資源学類3年、大吉ひなた||人文学位プログラム1年)

筑波大は今年10月で開学50周年。開学100周年を迎えた筑波大はどうなっているのか。50年後の後輩たちにはどんなメッセージを送りたいか。中央図書館前などで筑波大生に聞いた。(横山心咲||比較文化学類1年、衣笠有紀||心理学類3年、加藤緑||生物学類2年、新田早紀||生物資源学類3年、大吉ひなた||人文学位プログラム1年)

筑波大は今年10月で開学50周年。開学100周年を迎えた筑波大はどうなっているのか。50年後の後輩たちにはどんなメッセージを送りたいか。中央図書館前などで筑波大生に聞いた。(横山心咲||比較文化学類1年、衣笠有紀||心理学類3年、加藤緑||生物学類2年、新田早紀||生物資源学類3年、大吉ひなた||人文学位プログラム1年)

筑波大は今年10月で開学50周年。開学100周年を迎えた筑波大はどうなっているのか。50年後の後輩たちにはどんなメッセージを送りたいか。中央図書館前などで筑波大生に聞いた。(横山心咲||比較文化学類1年、衣笠有紀||心理学類3年、加藤緑||生物学類2年、新田早紀||生物資源学類3年、大吉ひなた||人文学位プログラム1年)

筑波大は今年10月で開学50周年。開学100周年を迎えた筑波大はどうなっているのか。50年後の後輩たちにはどんなメッセージを送りたいか。中央図書館前などで筑波大生に聞いた。(横山心咲||比較文化学類1年、衣笠有紀||心理学類3年、加藤緑||生物学類2年、新田早紀||生物資源学類3年、大吉ひなた||人文学位プログラム1年)

スガ広過ぎる」といっているのは変わらないと思う。50年後の筑波大生には、学生生活を楽しんでほしい。

【生物2年・男性】 平砂や一矢のような古くて狭い宿舎はなくなり、グローバルウィレッジのようになきれいで家賃が高い宿舎が増えるだろう。大学の施設も増えて、キャンパスが手狭になるはずだ。ただ、生活は今と変わらず忙しい。単位を落とす学生は存在し続けるだろう。

【知識2年・男性】 世界大学ランキング100位以内に入り、ノーベル賞受賞者も増えているのではないかと。50年後、プログラミンなどの授業では、ロボットが講義し、教員はロボットを訓練する役割を担っているかもしれない。

【インス2年・男性】 現在のキャンパスでは、みがかれているのをよく見かける。構内を循環しながらゴミを拾い、キャンパス内をきれいに保ってくれるロボットが活躍している。50年後も、きれいなキャンパスで学生に大学生活を楽しんでほしい。

【医療1年・女性】 50年後には医学エリアと本学エリアをより速く移動できるようにしたい。現状では、体育と他の授業間の移動が間に合わない。テーマパークのように、キャンパスは楽しくしてほしい。

【生物1年・女性】 授業は全てオンライン化し、キャンパスはなくなっていると思う。サークル活動や学生同士の交流は、メッセージのやり取りをしているのではないかと。

【人文3年・男性】 留学生の比率がかなり高まっている。東南アジアなど経済発展が著しい国からの留学生が増えている。海外留学し、そのまま就職する筑波大生も多くなるかもしれない。50年後もキャンパスは緑豊かであってほしい。気候変動の影響を受けつつあるが、高温にも耐えられる樹種を植えるなどの活動をしてもらいたい。未来の筑波大生にとって、世界は想像以上に広く自由な存在であってほしい。

【理工3年・女性】 空飛ぶ学内循環バスが走り、より速く便利に移動できるのようになっていく。

【理工3年・女性】 空飛ぶ学内循環バスが走り、より速く便利に移動できるのようになっていく。



イラスト=及川千翔(人文学類4年)

空飛ぶ学内循環バスが走り、より速く便利に移動できるのようになっていく。

記者の声



川上真生

本紙が企画した座談会に参加していた川上真生氏。

高校卒業と同時に地元・広島市を離れて1年半。実の親から

開学50周年 かけがえのない出会い大切に 学生たちが作る筑波大の歴史

「本屋へ行き、自分のお金で本を買いなさいよ。その方が、真剣に本を読むでしょ。将来きっと役に立つからね」

「今は親の方が立場は上でも、これから衰えていく。それを忘

も、言われたことがない話だ。た。なるほど」

ともあったが、「筑波大の学びがゲームプロデュースの礎になっている」と今は思うという。

イングリッド・プレミアリーグで活躍する三宮真選手は、筑波大での4年間を「サッカー選手を目指す中で最善の選択だった」と語った。今号を讀んでいると51年に及ぶ歴史がもつ重さを改めて確認し、次の世代に伝えていく事業である。

既に本年3月、第1冊目として史料編下巻(筑波大開学から今日までの歴史資料集)を刊行し、間もなく2冊目の図説編(151年の歴史写真集)も発行される。来年度に史料編上巻(師範学校創立から東京教育大閉学までの歴史資料集)を、再来年度には通史編を刊行し全4冊をもって完結する予定である。

これまで筑波大では、本格的な大学の歴史が編まれることになかった。「新構想大学」として戦後の高等教育史に大きな足跡を残すことが確実なのに、それはなぜだったのだろうか。理由は二つ考えられる。一つは、

たなければ、そこには同級生や恩師との出会いがあったことが分かるはずだ。

筑波大の学びや出会いを生かしているのは、功成り名を逐げた人たちがかりではない。

最先端の合成生物学を切り口に、地球環境問題の解決に挑む学生団体。筑波大が運営する

写真を見せていた。桐葉橋やペダストリアンデッキは既に設けられていたが、周辺は更地で、広い空が印象的だった。

それから、どれだけ多くの学生たちが筑波キャンパスを歩き交ってきたのだろうか。

歴史は人間が作るという。筑波大の歴史は、キャンパスで学ぶ学生たちが作ってきたのだ。

今後、時代は変わっても、学生たちは変わらぬ新たな歴史を作っていくことだろう。

日々の生活で学生が、筑波大という空間を貴重なと思うこと

はないかもしれない。だからこそ筑波大学新聞は、青臭くて泥臭い学生たちの姿をこれからも記録にとどめ、伝え続けていきたい。そう思った。その新たな一歩として、今特集号をお楽しみいただければ幸いだ。(筑波大学新聞副編集長・社会学類2年)

筑波時評

来る10月1日、筑波大は開学から50周年を迎えることになる。現時点で在籍する教職員や学生だけでなく、これまで関係してこられた全ての方々とともにこの盛事を寿ぎたいと思う。

筑波大史編纂「改革」求め続ける大学 50年間の歩み一冊に

巻(師範学校創立から東京教育大閉学までの歴史資料集)を、再来年度には通史編を刊行し全4冊をもって完結する予定である。

これから筑波大では、本格的な大学の歴史が編まれることになかった。「新構想大学」として戦後の高等教育史に大きな足跡を残すことが確実なのに、それはなぜだったのだろうか。理由は二つ考えられる。一つは、

たなければ、そこには同級生や恩師との出会いがあったことが分かるはずだ。

筑波大の学びや出会いを生かしているのは、功成り名を逐げた人たちがかりではない。

最先端の合成生物学を切り口に、地球環境問題の解決に挑む学生団体。筑波大が運営する

写真を見せていた。桐葉橋やペダストリアンデッキは既に設けられていたが、周辺は更地で、広い空が印象的だった。

それから、どれだけ多くの学生たちが筑波キャンパスを歩き交ってきたのだろうか。

歴史は人間が作るという。筑波大の歴史は、キャンパスで学ぶ学生たちが作ってきたのだ。

今後、時代は変わっても、学生たちは変わらぬ新たな歴史を作っていくことだろう。

日々の生活で学生が、筑波大という空間を貴重なと思うこと

はないかもしれない。だからこそ筑波大学新聞は、青臭くて泥臭い学生たちの姿をこれからも記録にとどめ、伝え続けていきたい。そう思った。その新たな一歩として、今特集号をお楽しみいただければ幸いだ。(筑波大学新聞副編集長・社会学類2年)

中野目徹 教授

人文社会系・教授。筑波大学院博士課程歴史・人類学研究科単位取得退学。博士(文学)。国立公文書館公文書研究職を経て、2008年から現職。16年から筑波大学アーカイブズ館長。21年から筑波大学50年史編纂室長。



「花上克宏さん 昭和53年 企画・運営をした。留学先と接する中で、本場のダンスを学生宿舎で、通学に時間を取られた。の共用スペースで教えても戸惑い、インベーターゲーム、ディスコ、麻雀、ビリヤード、そして気の合う仲間と何となく過ぎ去った4年間。樹木が大きく育ったキャンパスを訪れる度に、

【穂坂千秋さん 昭和53年】 思い出さなければならぬ。神奈川県の出身。00です。ポジションはセンターです。ようしくお願

【山下共行さん 昭和55年】 大学の時代の思い出といえ

【匿名 平成2年度理工学研究科修了】 入学した1985年は、

同窓生投稿 筑波大の思い出

【沼尻浩司さん 昭和59年】 度人文文学類卒

【匿名 平成2年度理工学研究科修了】 入学した1985年は、



「学際性」に支えられる筑波大の研究

「失敗は成功の元」

つくばで発展した導電性高分子研究

白川英樹名誉教授に聞く

電気を通すプラスチック「導電性高分子」の発見と開発で2000年のノーベル化学賞を受賞した白川英樹筑波大名誉教授。プラスチックは電気を通さないという常識を覆す研究で、その成果はパソコンやスマートフォンなどに広く活用されている。開学50周年を前に、白川名誉教授に筑波大での研究生活や今後の筑波大への期待などを聞いた。(聞き手・川上真生、加藤緑、青野心平、写真は吉川栞、横浜市青葉区7/24日)



◇白川英樹(しらかわ・ひでき)氏 1936年生まれ。61年東京工業大理工学部化学工学科卒。66年同大学院理工学研究科博士課程修了、同大助手。76年米ペンシルベニア大博士研究員。79年筑波大物質工学系助教授。同大教授を経て2000年同大名誉教授。同年「導電性高分子の発見と開発」でノーベル化学賞受賞。02年より日本学士院会員。

◆筑波大着任は学系長からの「直談判」がきっかけだ。着任前は東京工業大の助手だった。ポストの打診は、講座の教授を経由するのが普通だが、物質工学系長の岡崎誠教授(当時)から直接、打診があった。導電性高分子の研究で留学していた米ペンシルベニア大から帰国し、物性研究にも手を伸ばし始めた時期だった。そうした活動が目をはいたのだから。ぜひ行かせてほしいとお答えした。ポストの直接的な打診も、いま思えば新構想大学らしい。

◆思い通りの結果が出ない方が、研究意欲が湧いた。研究で思い通りの結果が出た時は確かにうれしい。でも、研究する上で一番役に立ったのは、思い通りにいかなかった時だ。実験の十中八九は失敗に終わる。その原因を探ることで研究が進み、全く別のテーマが見つかるともある。

◆学際性、国際性の一層の発展を筑波大に期待する。学際性や国際性は建学の理念にうたわれているが、「初心忘るべからず」の気持ちで不断の改革に取り組みしてほしい。研究も、友達付き合いも、うまくいかなければ世の常だ。失敗には必ず理由がある。その理由を考察することで更に飛躍できることを、筑波大生には常に意識してほしい。

筑波大退職後は、日本科学未来館(東京都江東区)で月1回、導電性高分子の実験授業を開いてきた。コロナ禍で中断したが、今年1月に再開した。科学技術に親しむには自分が手を下して実験することが一番重要で、色々な法則を理解することにもつながる。これが「見れば一実験に如かず」ということ。今後も実験の楽しさを子供たちに伝えていきたい。

つくばハピネスライフ研究

つくばデジタルバイオ国際拠点の一環で



新井哲明教授



大藏倫博教授

つくば市民の健康状態を追求調査し、どのような人が認知症や要介護になりやすいかを明らかにするとともに、その予防法開発を目指す「つくばハピネスライフ研究」が昨年始まった。

同プロジェクトは筑波大を中心に産官学が連携し、30年までに①先制医療②社会③感染症に強い社会④人々が「食薬」で健康に暮らせる社会の三つのビジョン実現を掲げ、29年度までに30億円超の国費が投入される見通しの大型プロジェクトとなる。

ハピネスライフ研究は、これらのビジョン実現に向け定められた五つの研究開発課題の一つとなる。昨年7〜8月には無作為抽出した45〜89歳のつくば市民1万人に、郵送で健康状態に関するアンケートを実施。2281人

大藏倫博教授(体育系)が研究リーダーで、筑波大医学医療系の研究者や民間企業も参加する。大藏教授は「研究から健康増進に役立つ製品開発までを行い、人々の健康寿命を延ばしたい。学際研究は筑波大が得意とするところ」と語る。

国民のウェルビーイング(心身の健康や幸福)を目指し、科学技術振興機構(JST)の支援を受けて2020年末に始まった「つくばデジタルバイオ国際拠点プロジェクト」の一環だ。

から回答を得た。そのうち認知症や睡眠障害の潜在的なリスクがあるなど健康リスクが高いと判定された1208人に、より詳細な健康診断(ハピネスライフ健診)への参加を勧めた。

市民の健康に貢献

その結果、今年8月31日時点で405人が参加した。参加費は無料で、今後も毎年診断に参加してもらい、生活習慣・認知機能・睡眠状況などの項目で詳細な検査を行う。必要に応じて認知機能低下を防ぐ運動プログラムなどを紹介する。

今後3年間で参加者を1000人まで増やし、健診で得られたデータの解析から、認知機能低下や睡眠障害などの要因を探る。大藏教授は運動機能と認知機能の関連を研究してきた。茨城県等間市の高齢者を対象に健康状態を追跡調査しており、その経験を今回の研究に生かすという。



ハピネスライフ研究で取り入れられている運動プログラム実践の様子 = 大藏教授提供

共同研究者の新井哲明教授(医学医療系)は、高齢者の発話時の音声などを人工知能(AI)で解析し、認知症を早期発見する研究に取り組む。早期発見できれば、投薬や運動療法で進行を遅らせることができる。ハピネスライフ健診で得られたデータを活用し、より早期に発見できる手法を確立したいと語る。

つくばに拠点を置く研究機関には、筑波大の「つくばヒト組織バイオバンク」、農業・食品産業技術総合研究機構の「ジーンバンク」など幅広い分野で生物遺伝資源(バイオリソース)が蓄積されている。デジタルバイオプロジェクトの副プロジェクトリーダーを務める森賀俊典特命教授(医学医療系)は「これらの資源を有効活用し、研究から産業化までを一気通貫で行える体制を整え、つくばを全国のウェルビーイングを支える拠点にしたい」と話している。

(衣笠有紀、青野心平)

先制医療 個人の遺伝情報などに基づき、将来起こりやすい病気を発症前に診断・予測し、予防につなげる発症を遅らせたりする医療のこと。

その全貌に迫る

筑波大の教育研究の大きな特色が教員組織と教育組織を分ける「教・教分離」だ。原則として教員は教員組織の「一系」に所属し、学生が所属する学群・学術院に教える方向性を取る。教育組織でもある学部や大学院に所属することが多い。他大の教員とは異なり、学際研究や改革が進めやすいとされる。現在の「一系」は2012年に10分野でスタートし、18年には二つの研究センターで作る学際研究系が加わった。各系長らに系の特色や注目の研究を取材し、その全貌に迫った。

(本紙取材班)

縦割り排し柔軟性保つ



本紙の取材に応じる重田副学長(8月24日、本部棟で) = 青野心平撮影

系の狙いと意義

重田副学長(研究担当)に聞く
教員組織の「一系」とは筑波大にとってどのような存在なのか。その狙いや意義を重田副学長(研究担当)に聞いた。

(聞き手・青野心平)

「系とは何か。どのような活動をしているのか。おおよその専門分野で」

基礎から応用まで幅広く生命環境系(生環系) 207人

菅谷純子教授と中田和仁教授の話

地球、環境、生物、農業など幅広い分野を地球科学、生物学、化学、農学、工学、経済学、人文地理学といった多角的な視点から研究している。

海と山なフィールドの異なる研究者が議論した

「おおよその分野で」とに系をおく利点は、細かな専攻ごとに教員組織を作ると、研究・教育の方向性も狭まってしまふ。一方、おおよその分野で系を作ると、客観性をもって研究・教育の方向性を評価できるようにする。専門が異なる教員が同じ組織にいて、学際分野の開拓につながる。柔軟性のある組織に教員がいることで、教育活動も柔軟に行えるのも利点だ。

系長の役割は?

「系をつかさどる系長は大学執行部の一員として学長と教員を結びつける役割を果している。人事権も持つ。系内の話し合いを大切に」

「系を今後、どのような組織に発展させたいか。国際化を一層進めたい。大学が評価される国際的な指標の一つに英語による教育の充実がある。そのためにも、外国人教員を増やすなどの改革が必要になってくるだろう。」

生環系の注目研究

細菌の集合体をバイオフィームと呼ぶ。虫歯の原因になる菌もバイオフィームで、虫歯菌や歯周病菌が集まっている。台所や浴槽のヌルヌルもそうだ。

野村暢彦教授の話

微生物も「会話」する

野村暢彦教授の話

細菌の集合体をバイオフィームと呼ぶ。虫歯の原因になる菌もバイオフィームで、虫歯菌や歯周病菌が集まっている。台所や浴槽のヌルヌルもそうだ。

野村暢彦教授の話

現代社会の課題に挑戦 人文社会科学系(人社系) 195人

関根久雄系長の話

歴史、思想、文学、言語、哲学、人文学などを対象とする人文系と、経済、法、政治、社会などを対象とする社会科学を研究する教員で構成されている。人文情報学や環境科学など、理系分野と深く関わりながら研究する教員もおり、所属教員が研究対象とする分野は多岐にわたる。現代社会の諸課題を解決するには、これらの教員が領域横断的に研究をつなぐ必要がある。

そのため、2014年に人文社会科学国際比較研究機構(ICRC)を設置した。毎月開催するICRC運営委員会や研究プロジェクトや研究企画などを共有し、専門の柴田大輔教授は、紀元

社会人大学院担う ビジネスサイエンス系(ビジネス系) 46人

大石和彦系長の話

現代のビジネス社会の諸問題を科学的な視点で解決するために法学や経営学などの教育研究を推進している。法学分野の「企業法学研究グループ」と「法書研究グループ」、経営分野の「経営システム科学研究グループ」と「国際経営プロフェッショナル研究グループ」の4グループがある。

夜間の社会人大学院を担当し、弁護士など実務家教員も所属している。

社会人である学生に触れることで、教員も成長できる。学生が抱く問題意識は実際の社会で起きていること



尾崎愛美准教授

ビジネス系の注目研究

2017年には「装着型GPS捜査とプライバシー」をテーマに論文をまとめた。被疑者の車両にGPSを装着して行動を継続把握することはプライバシー侵害の程度が高い一方、逃走する車にGPS装置を打ち込んで追跡するなど短期間の利用は任意捜査として許容されるとした。

尾崎准教授はこの研究により「デジタル・フォレンジック研究会」の優秀若手研究者表彰で優秀賞を受賞した。「ビジネス系」では、自分の研究が実務の現場でどう扱われているのかを、現役弁護士の実務家教員から直接聞くことができる。とても恵まれた研究環境だ」と話す。

古代メソポタミアに地方政権

柴田大輔教授の話

前2千年紀と同一千年紀のメソポタミアを対象に、楔形文字が書かれた粘土板文書から当時の政治や社会文化を読み解いている。

05年には、シリア東部のテル・タバン遺跡から発掘された「テル・タバン文書の解読を始めた。この文書は紀元前13〜11世紀頃に

新たな学問領域の創造 数理学系(数物系) 205人

服部利明系長の話

数学、物理、化学などの自然科学及び物理学、物質工学などの応用科学を研究する教員で構成される組織だ。系内には宇宙史研究センターなど5つの研究センターもある。また、筑波大と仏グループ・アルプ大と平塚体に関する共同研究室を筑波キャンパスに設置し、仏の研究者と一緒に研究を続けている。

昨年からは、分野の異なる教員同士が互いの研究について話し合う「数理学系学際セミナー」を始めた。これを新たな学問領域の創造につなげたい。

社会の要請に合致した研



近藤剛弘教授

数物系の注目研究

近藤剛弘教授は水素の製造・貯蔵・輸送に適した新材料を研究している。

水素を燃やしても水が生じるだけで、地球温暖化を招く二酸化炭素を排出しない。このため、水素の利活用に向けた技術開発競争が世界的に進んでいる。

水素活用で温暖化防止

睡眠中に血圧が高くなる「夜間高血圧」や起床前後に血圧が上がる「早朝高血圧」は脳卒中や心筋梗塞のリスク要因だ。これらを検知するには、睡眠中、30分ごとに血圧を測定する必要があり、通常の血圧計は腕を加圧するため、睡眠の妨げになる。そこで、心臓の動きで生じる振動から、血圧の変動が分かるという。前田助教は「系



前田祐佳助教

シス情系の注目研究

野村教授は「ヒトの腸内細菌もバイオフィームを形成し、MVを使って宿主と話に使える化学物質が、脂質でできた直径数十〜数百ナノメートルの微粒子「メンブレンベントリ」(MV)に包まれて放出される場合があることも突き止めた。MVは特定の相手に情報を伝える時に使われるという。

眠り妨げずに血圧測定

最先端の技術を生かし、研究成果を社会実装できるツールも開発する予定だ。系内の取り組みからはじめ、全学のDX化を引っ張っていききたい。

「情報」「システム」デジタルトランスフォーメー

張っていききたい。



写真と年表で振り返る



中央図書館で1991年6月から土曜日の開館時間が延長、日曜日も開館することになった。写真は1990年ごろの中央図書館の様子(第133号より)。

1991年

中央図書館 開館日時延長



つくば科学万博が1985年3月27日から9月16日までの6カ月にわたり開催され、延べ2033万人が訪れた。本紙記者が会場で取材し作成したイラストマップ(第82号より)。

1985年

つくば科学万博 開催

2001年	2000年	1999年	1998年	1997年	1996年	1995年	1994年	1993年	1992年	1991年	1990年	1989年	1988年	1987年
2001年▼「二食堂新装開店 壁面は公募で」(第216号)。	2000年▼大学院博士課程を改組・再編。白川英樹名誉教授がノーベル化学賞を受賞。シドニーパラリンピック競泳で河合純一2種目で金。	1999年▼「校章『桐の葉』デザイン統一」(第192号)。	1998年▼「北原保雄第6代学長就任」。	1997年▼「理工学研究所(修士課程)と工学研究科(博士課程)で学内初の推薦入試導入」。	1996年▼「淡路大震災の被災者救援」(第163号)。	1995年▼「皇太子殿下来学」。	1994年▼「中央図書館増築 増える蔵書に対応」(第157号)。	1993年▼「計算物理学研究センター」設置。	1992年▼「国際政治経済学研究所(博士課程)設置」。	1991年▼「中央図書館 土曜開館延長・日曜開館」(第133号)。	1990年▼「阿南学長再任」。	1989年▼「東京キャンパス大学院修士課程に全国初の社会人向け夜間開講専攻設置」。	1988年▼「基礎医学系薬理学研究室が血管収縮因子「エンドセリン」を発見」。	1987年▼「つくば市誕生」。
2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	2010年	2009年
2023年▼「生成系AIの利用に関する基本方針発表」(第377号)。	2022年▼「ウクライナ学生の受け入れ発表 第1期は20人」(第371号)。	2021年▼「厚生労働省へ届け出 国内初」(第361号)。	2020年▼「指定国立大学法人に指定」。	2019年▼「筑波大26年ぶりの箱根駅伝出場」(第349号)。	2018年▼「アスレチックデパートメント(AD)発足」。	2017年▼「グローバルウィレッジ運用開始」。	2016年▼「筑波大アーカイブズ設置」。	2015年▼「筑波大クレジットカード開始」(第319号)。	2014年▼「つくば市が街灯問題解決へ協議会設置」(第313号)。	2013年▼「Grade Point Average」制度導入」(第306号)。	2012年▼「な被告」(第300号)。	2011年▼「西アジア文明研究センター」。	2010年▼「東京五輪男子柔道81kg級永瀬貴規(平成27年度体育専門学群卒)が金」。	2009年▼「双峰祭3年ぶりの対面開催」(第374号)。



コロナ禍で中止となった2020年以来、3年ぶりに対面で行われた双峰祭。11月5、6日の2日間で展示やステージ発表など約100企画が並び、延べ約7000人が訪れた。写真はマスク姿で案内所に並ぶ参加者たち(第374号より)。

2022年

双峰祭 3年ぶりに対面開催



東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)に26年ぶり61回目の出場を果たした筑波大。総合成績は20位と振るわなかったが、新春の箱根路を駆け抜けた。写真は往路でゴール間近の相馬崇史選手(第354号より)。

2019年

26年ぶり 箱根駅伝出場

「つくばマップ」42年の歴史

キャンパスの「今」を記録し続ける

1981年の本紙「新生歓迎号」から掲載が始まったつくばマップ(旧「いらすとまっぷ」)。今年4月発行の第376号まで42年間にわたり、「今」を記録してきた。当時の読者や編集部員に利用法や製作の裏側を取材するとともに、89年、2000年、23年のマップから筑波キャンパス周辺を抜き出してその変遷を紹介する。(川上真生、吉川栞)

内海真生教授(生環系)は、松尾洋平さん(平成15年度人間学類1988年度入学。広島県出身でつくばは土地勘が全くなかった。)

「平砂学生宿舎に入ったが、日々の生活は宿舎と校舎の往復が中心だった。お店の情報なども限定的で、当初の行動範囲は宿舎周辺に限定されていた。だが、マップを見てさまざまなお店の存在を知り、春日や吾妻、竹園などへも足を伸ばすようになった」と振り返る。

2002年に本紙編集長を務めた

文化学類卒)は「つくば市は学生や研究者が多く、人の入れ替わりの激しい『通り過ぎていく街』という認識があった。マップを通じてつくばに愛着を持ってほしい」と製作に込めた思いを語る。

08年までマップは手書きで、芸術専門学群の学生に編集部から作成を依頼していた。

09年にマップをデジタル化した元イラスト担当の奈須愛也香さん(同22年度芸術専門学群卒)は「見やすくて、更新もしやすいと考えた」という。スマートフォンが登場し始めた時代だが「まだ身近ではなく、新入生がお店を知るためによく活用してくれた」と言う。

スマホが普及した現在は、店舗検

素が簡単にできるため、かつては比べればマップの需要は高くない。だが、高元愛香(現編集長(心理3年))は「紙面の形で現在を記録することは、後世に伝えるためにも意義がある。50年後にもマップが掲載され続けたい」と願っている。

学生と街の出会い演出:マップの変遷を紹介

手書きで書かれた1989年(左上)のマップ。建物の描き方が立体的で、製作者の声を代弁するとおぼしきキャラクターも登場。情報を伝えようとする熱量が半端ない。

世紀の変わり目となる2000年(右下)のマップは、地図が平面化した。建物の位置は分かりやすく描かれている。

最新版となる23年(左下)のマップは、デジタル化したことで、紹介する店舗の位置情報がより正確になった。スマートフォンで店舗情報は簡単に検索できるが、キャンパス周辺の状況を一覧できるのは、マップならではの



1989年に掲載のマップ

23	2000	89	81	1973	マップ年表
マップ(左下)	マップ(右下)	マップ(左上)	いらすとまっぷ(つくばマップ)誕生	筑波大開学	



2023年に掲載のマップ



2000年に掲載のマップ



つくばマップでたどる学生生活の変遷 筑波大生支えた店主ら 大いに語る



毎年4月に本紙が掲載する「つくばマップ」は、筑波大の新生生にとって必需品だ。1981年から、編集部員がキャンパス周辺を探索し、飲食店や主要施設などを紹介してきた。マップの変遷は筑波大生の暮らしの変遷そのものだろう。初期からマップに登場し、本紙連載「桐の葉と共に」でも紹介した3店舗の関係者と卒業生に、思い出や筑波大生への期待などを語り合ってもらった。

【司会】本紙記者・吉川柁二第2類1年(座談会は8月6日、本紙編集室で開催)

卒業生と今もつながる

司会 長く筑波大生の暮らしを支える中で、忘れたい出来事は？

井上 あり過ぎるが、学生のバイクチームをサポートしていたこと。私の還暦と古希の時には、彼らがホテルで祝宴を開いてくれた。結婚式に招かれ、北海道や三重なども訪れた。

宮下民 つい先日、うちLARETさんのようにボの店でアルバイトして知り合ったカッパルが還暦報告に来てくれた。卒業生とのつながりは多い。

田中み 歴代のバイク生はほとんどが筑波大。芸術専門学群が多く、開店当初からお店のレイアウトや値札のデザインなど、店と一緒に作り上げてきた。その時の人たちは今も一緒に旅行に出かけたりしている。

司会 卒業生の皆さんの学生生活は？

中島 休み時間は自転車で教室移動。自炊をせず、夜も自転車でお店巡り。C

井上さん CLARETには学生時代、週に4回通うほどお世話になった。間違った道を進みそうになった時、お2人はそれぞれ着かなくなっている。本や新聞を読んでいる姿も見



原さん 松本 店員に話しかけられたくないという風潮は出てきたかもしれない。

田中み 諦めずにごちから話し掛けてい

井上 スマホの普及など学生を取り巻く環境は変わっても、筑波大生ならではの「素直さ」は変わっていないのでは。

司会 街そのものの変化はどうか。

松本 お店が入居する久保ショッピングセンターは古本街だったが、古書店は消えてしまった。

井上 開業当初、店の前の平塚通りは西大通りとはつながっておらず、大学会館付近で止まっていた。周辺は水はげが悪く、長靴で登校する学生も多かった。自転車パンクして、修理に来る客も絶えなかった。

座談会参加者

- ◇軽食・喫茶 CLARET(つくば市天久保) 宮下友邦さん・宮下民子さん
1978年創業。店舗は平塚通り沿い。学生の日常生活に耳を傾け、親身に対応する姿から、2人を「つくばの両親」と呼ぶ卒業生も。
- ◇自転車店 井上サイクル(同) 井上康男さん
1979年創業。CLARETとはビル1棟を挟んでお隣同士。康男さんは店長を長男に譲ったが、筑波大生の自転車生活を今も支え続けている。
- ◇洋服リサイクルショップ・古着屋MPH(同) 松本美砂さん、田中みどりさん、田中英則さん
田中みどりさんが1988年創業。店舗は天久保大学通り商店街。現店長は松本さん(平成11年度芸術専門学群卒)で、アルバイトとして学生時代から店舗に出ていた。英則さん(昭和54年度環境科学修了)はみどりさんの夫。
- ◇平野国美さん(平成3年度医学専門学群卒)
学生時代からCLARETの常連。訪問診療専門クリニック「ホームオン・クリニックつくば」院長。著書にドラマ化された「看取りの医者」や「70歳からの正しいわがまま」など。
- ◇中島光夫さん(平成27年度システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻修了)
元筑波大学新聞編集部員。
- ◇原啓一郎さん(平成26年度社会学類卒)
元筑波大学新聞編集長。



井上さん CLARETには学生時代、週に4回通うほどお世話になった。間違った道を進みそうになった時、お2人はそれぞれ着かなくなっている。本や新聞を読んでいる姿も見

原さん 松本 店員に話しかけられたくないという風潮は出てきたかもしれない。

田中み 諦めずにごちから話し掛けてい

井上 スマホの普及など学生を取り巻く環境は変わっても、筑波大生ならではの「素直さ」は変わっていないのでは。

司会 街そのものの変化はどうか。

松本 お店が入居する久保ショッピングセンターは古本街だったが、古書店は消えてしまった。

井上 開業当初、店の前の平塚通りは西大通りとはつながっておらず、大学会館付近で止まっていた。周辺は水はげが悪く、長靴で登校する学生も多かった。自転車パンクして、修理に来る客も絶えなかった。



田中みどりさん

ロングコートがよく売れた。それまでのつくばは車が中心の生活だから、コートは短いものでよ

田中英 昔は女子学生があまり化粧をしておらず、就職活動に合わせて大学が講習会を開いていた。

松本 今も昔も学生の可処分時間はそう変わらないとして、スマホもTXもなく、つくばが「陸の孤島」と言われた時代は、入ってからの情報も少なかった。暇で余白があったからこそ独



田中英則さん

ンパスの雰囲気は、変わらなくていいほしい。

司会 今後の筑波大生に期待することは？

宮下友 もっともっとと失敗してほしい。

田中英 真面目に悩みすぎず、自分のしたいことをしてほしい。

平野 開学から50年が経過し、価値観も多

「もっと失敗してほしい」

原 TXの開通が学生生活を大きく変えたと感じた。都心に行きつらかったTX開通前を知らないが、「つくばで何かをやる」という気概を持った学生が多かった。

松本 学生との出会いは面白い。私自身の見聞も広がっていく。これからも出



平野さん 井上 お店に訪れる人を全員筑波大生にする。そのくらいの心構えで、親身に筑波大生に向き合いたい。

宮下民 今の学生は大人と話す機会が少ない。だからこそ、店を会話が生まれる場所にして

中島 チェーン店が別の店に模様替えしたり、つぶれたりしたケースはある。待たたりするの寒いのが、「こおひいほす」で、ロングコートの需要が増えた。

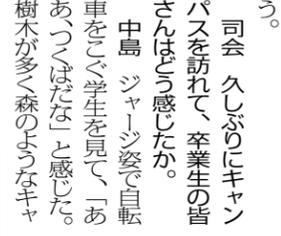
平野 私が学生の頃はほとんどの学生が、入ってからの情報も少なかった。暇で余白があったからこそ独



松本さん

入ってからの情報も少なかった。暇で余白があったからこそ独

中島 シャーシで自転車を見て、「あ、あんなに」と感じた。樹木が多く森のような



宮下友邦さん

宮下友邦さん TXの開通が学生生活を大きく変えたと感じた。都心に行きつらかったTX開通前を知らないが、「つくばで何かをやる」という気概を持った学生が多かった。

松本 学生との出会いは面白い。私自身の見聞も広がっていく。これからも出

「もっと失敗してほしい」

原 TXの開通が学生生活を大きく変えたと感じた。都心に行きつらかったTX開通前を知らないが、「つくばで何かをやる」という気概を持った学生が多かった。

松本 学生との出会いは面白い。私自身の見聞も広がっていく。これからも出



宮下民子さん

宮下民子さん TXの開通が学生生活を大きく変えたと感じた。都心に行きつらかったTX開通前を知らないが、「つくばで何かをやる」という気概を持った学生が多かった。

松本 学生との出会いは面白い。私自身の見聞も広がっていく。これからも出

広告欄

掲載のお問い合わせは

shinbun@un.tsukuba.ac.jp

までお願いします。



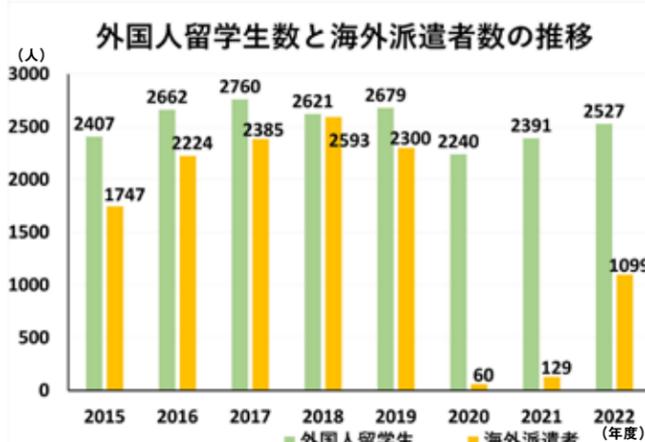
30年までに外国人学生5000人目指す 筑波大 グローバル化の取り組み



建学の理念の柱の一つとして「国際性」を掲げた筑波大。開学から50年を経て、学内のグローバル化はどれほど進み、どんなシステムや環境が整えられたのか。その現状を追い、今後の課題を池田潤副学長(国際担当)に聞いた。(シダス・ポーターII 人文学類、山本貴世II 国際総合学類、衣笠有紀、高元愛香II 心理学類、加藤緑II 生物学類、青野心平II 第2類)

キャンパス飛び交う多言語

東西約1時、南北約4時の肌の色もさまざま。広大な筑波キャンパスを歩くと中国語や英語、韓国語、で、筑波大の学生数(学ス페인語など)がそこかしこ群生及び大学院生)は多言語が飛び交う。学生1万7418人。このうち



外国人留学生(留学ビザを持つ学生)は2399人。留学生数と留学生比率は国立大でトップクラスだ。留学生の出身地は中国が53%、韓国が5%、インドネシアが4%など全体の78%をアジア地域が占めるが、115の国・地域から学生が集まっている。筑波大からの海外派遣者数は昨年度1099人(短期研修876人、留学生223人)。渡航先は米国、韓国、カナダ、マレーシア、フランスの順となっている。

留学先の選択肢となるのが協定校だ。筑波大は海外の大学や研究機関と合計378の協定(9月8日現在)を締結している。また、米国やマレーシアなどに海外拠点(12カ所)を設置し、留学生のリクルーティングや現地に留学している筑波大

留学生が語学の先生役

「何かサークルに入っていて、さまざまな言語に親しむこと」が今年度の春学期は英語、日本語、フランス語、スペイン語の四つだ。この学生が「デザインをしながら、サークルで着る「costume」と別の米国人留学生が助け舟を出した。



スペイン語で話し合う学生ら(7月28日、1A棟) = 高元愛香撮影

の言語を対象に、1A棟2階のチューデント・コモンズで週一回(英語のみ)2回、午後3時15分から同4時半にかけて実施されている。

イベントでは毎回、約25人の学生が集まる。メンバーは留学生、日本人学生がほぼ半々で、5~8人のグループに別れて会話する。各グループには、各対象言語に長けたファシリテーターが置かれ、会話をリードする。話題は、「就きたい職業」「過去にしていたスポーツ」「行ってみたい国」などランダムに話せるものばかりだ。

職員(米ロラウラ)は英語と韓国語など学生から要望が多い言語にも対応したいと話す。

ウクライナ避難学生 国立大で最多44人

筑波大は昨年7月から、ロシアによる侵襲で学びの場を失ったウクライナ避難学生を受け入れている。2022年度末までに受け入れた人数は国立大では最多の44人。本紙は来学第一号となった国際総合学類の

「次」では県営住宅に入居しているが、ある日、エアコンが壊れた。学生交流課に連絡したところ、職員が部屋まで駆け付けて業者に修理を依頼し、業者との通訳も担当してくれた。職員たちはいつも20%のサポートをしてくれてありがたい」と語る。



取材を受ける池田副学長(8月8日、本部アネックス棟) = 衣笠有紀撮影

「筑波大は開学当初から国際性に力を入れてきた。開校50周年を迎え、国際性をさらに高めたい」と語る。

筑波大生には、とにかく世界を見てほしい。外国で苦勞し、人に頼る経験は必ず人間の成長を促す。海外に行くチャンスがなくても、学内で積極的に留学生と交流し、自分が持っている新しい考え方を得てほしい。そうして「大きな人材」に育ててほしいと期待している。



3人は「早く戦争が終わり、平和なウクライナを取り戻したい」と結んだ。避難学生を多く受け入れた筑波大は、学生交流課の五十嵐千恵子課長は「筑波大は毎年多くの留学生を受け入れている。その経験があるため、受け入れに伴うさまざまな課題に対して、迅速に対応できた」と語る。

池田潤副学長に聞く

筑波大の国際化の歩みをどう評価し、今後をどう展望しているのか。池田潤副学長(国際担当)に聞いた。(聞き手・山本貴世、衣笠有紀、加藤緑)

「筑波大は開学当初から国際性に力を入れてきた。開校50周年を迎え、国際性をさらに高めたい」と語る。

「筑波大生には、とにかく世界を見てほしい。外国で苦勞し、人に頼る経験は必ず人間の成長を促す。海外に行くチャンスがなくても、学内で積極的に留学生と交流し、自分が持っている新しい考え方を得てほしい。そうして「大きな人材」に育ててほしいと期待している。」

ハラル食も礼拝場所も

平日の昼休み。2B棟1階の廊下には、長い行列が伸びている。英語が飛び交い、髪を覆うヒジャブ姿の女性たちがいる。その先には「カフェ・マルハバン」が食べられるハラル料理を専門に提供している。



「カフェ・マルハバン」で料理を注文する学生ら(9月20日、2B棟) = 青野心平撮影

同店の高田裕二社長は、キャンパス内の別の場所でもスーパーストアを出店しており、筑波大から「ムスリム向けの料理を提供してほしい」という声も届いている。

「筑波大の国際化の取り組みは、学生交流課の五十嵐千恵子課長は「筑波大は毎年多くの留学生を受け入れている。その経験があるため、受け入れに伴うさまざまな課題に対して、迅速に対応できた」と語る。

「筑波大の国際化の取り組みは、学生交流課の五十嵐千恵子課長は「筑波大は毎年多くの留学生を受け入れている。その経験があるため、受け入れに伴うさまざまな課題に対して、迅速に対応できた」と語る。

パリ五輪内定の森 「課題克服し金メダル目指す」

【1面参照】8月にスイスのベルンで開かれたスポーツクライミングの世界選手権。ボルダー・リードの女子複合で3位に入った森秋彩(体専2年)が、同種目のパリ五輪への切符を手にした。回選手権では非五輪種目の女子リードで初優勝し、金と銅のメダル二つを獲得。パリ五輪での活躍が期待される。(久玉佳純)



リード決勝で次のホールドに向け手を動かす森=本人提供

鶴澤 世界陸上で準決勝進出 アジア陸上で金



写真:アフロスポーツ

アジア選手権の男子200mで大会新記録を打ち立てた鶴澤

アジア選手権が7月12〜16日にタイのバンコクで開かれた。筑波大の鶴澤(体専3年)が、男子200mで20秒23の大会新記録をマークし優勝した。また、日本が3位に入った混合1600mリレー決勝には今泉賢貴(同4年)が第一走として出場し、3分15秒71の日本新記録樹立に貢献した。2人は8月19〜27日にハンガリーのブダペストで開かれた世界選手権でも代表入りし、鶴澤は男子200mで準決勝進出を果たした。(川上真生)

クライミング

スポーツクライミングのうちボルダーは、高さ5m以上の壁を制限時間内にいくつ登れるかを競う。リードは制限時間内に高さ15m以上の壁をどの地点まで登れるかを競う。持久力に優れた森はリードが得意だ。8月6日の女子リード決勝は森を含め9人が出場。準決勝を首位通過した森は最終9番手で登場した。8番手で出場した選手が制限時間を3秒残して完登に成功し、森が優勝するにはより速く完登するしかない状況に追い込まれた。森は時間配分を考え、序盤からあまり休みを取らずに登り進めた。中盤のジャンプが必要な場面をうまく切り抜けると、残り28秒で完登を成し遂げた。「思い切ったジャンプが

成功し、ほっとした。完登した瞬間、うれしさが込み上げた」と話す。5日後の女子複合決勝にこの勢いがつなげた。8人で争われた複合決勝前半のボルダーで、森は6位と出遅れた。四つの課題のうち完登は一つにとどまった。だが、リードで本領を発揮する。ホールドを一つ一つ確実につかみ、15mの壁をシリシリと登っていく。完登まで残り1手となる50mホールド目をつかんだ時点で、総合3位を確定させ、五輪切符もつかみ取った。森は「リードで完登を逃したのは悔しいが、苦手なボルダーを得意のリードでカバーし、上位に食い込めた。パワー不足など今大会で浮かんだ課題を克服し、五輪では優勝を狙う」と1年後を見据えた。

陸上

鶴澤は7月15日のアジア選手権男子200mで準決勝を全体トップの20秒56で走り、決勝へ進出した。翌16日の決勝では、スタート直後に内側にいた中国選手に先行された。しかし、直線に差し掛かったところで加速しトップに立ち、そのまま自己ベストの20秒23でゴールした。日本歴代8位タイ、学生歴代2位の好記録だった。鶴澤は「序盤は他国の選手に先を行かれたが、落ちていく走り切れた」と振り返った。15日の混合1600mリレーで第一走を務めた今泉は「2走以降の走者に余裕を持たせたい」と先頭集団でレースを進め、1位のイ

ンドとほぼ同じタイミングでバトンを渡した。日本はその後、インドやスリランカと首位争いを展開したが、わずかに及ばず3位となった。今泉は、「リズムよく、大崩れしない走りができる。ただ、最後の直線で体が開き、やや失速したことが悔やまれる」と話した。ハンガリーの世界選手権で鶴澤はアジア陸上と同じ男子200m、今泉は男子1600mリレーの代表に選ばれていた。鶴澤はパリ五輪参加目標記録(20秒16)突破を目標にレースに挑んだ。8月23日の男子200m予選5組を20秒34の1着で通過し、準決勝に駒を進めた。準決勝では、同種目の東京五輪金メダリスト、アン

ドレ・ドグラス(カナダ)ら世界のトップ選手と同組となった。スタートから勢いのある走りを見せたがコーナーで差をつけられ、20秒33の5着となった。参加標準記録は突破できなかったが、自己ベストに迫る走りだった。鶴澤は「世界のレベルを体感できた。この経験を生かして、タイムを上げていきたい」と振り返った。今泉は世界陸上直前のユニバーシティゲームス中に故障したことが響き、リレーメンバーから外れた。今泉は「体がベストな状態ではなく、チームに貢献できなかったことは悔しい。メンバーに選ばれたことを自信にして、競技に打ち込みたい」と語った。



決勝で中央大の猪原と間合いを計る川合

=本人提供

川合 念願の学生日本一

笠と北澤は3位入賞

個人戦の女子学生日本一を決める全日本女子学生選手権が7月1日、日本武道館(東京都千代田区)で行われ、川合(体専3年)が初優勝した。筑波大からは川合を含めて6人が出場。笠日向子(同3年)が3年連続で3位となり、初出場の北澤(同1年)も3位入賞を飾った。(菅元愛香)

剣道

川合は2回戦から登場。中央大の井上彩良を相手に二本連続でメンを奪い快勝した。続く3、4回戦も順調に勝ち進み、準決勝に進出。笠と北澤も準決勝に駒を進め、ベスト4のうち3人を筑波大勢が占めた。準決勝で笠は中央大の猪原悠月と対戦。試合序盤にコテで一本を先取りされた。笠はそのまま、一本を取り返せず敗れた。笠は「コテで一本を取ったが、一本を取り返せず敗れた。笠はそのまま、一本を取り返せず敗れた。笠はそのまま、一本を取り返せず敗れた。」と振り返った。筑波大勢同士の準決勝は、川合と北澤の準決勝で2人は、果敢に攻め合った。試合開始2分余り、竹刀を上げた北澤が構えの態勢に戻ろうとしたところへ川合がメンを打ち込み一本になった。その後

バスケット

中央大戦を71-64、浜松学院大戦を107-55で勝ち進んだ。決勝では専修大に73-66で勝利し、初代王者に輝いた。決勝は、岡川久輝(同2年)の先制点で始まった。第1クォーターは14-15と接戦で終えた。第2クォーターでは、専修大のディフェ

ンスで相手にプレッシャーをかけ、自分たちのペースに持っていくと考えた。第3クォーターは岡川久輝のゴール下でのシュートで猛攻を仕掛け、47-49と再び接戦に持ち込んだ。第4クォーターでは、開始2分、黄のスリーポイントシュートで逆転に成功。その後、リードを保ち、そのまま優勝を飾った。福田は「後半はディフェ

女子

松蔭大戦を100-58、日本経済大戦を79-59、山梨学院大戦を91-86と順調に勝ち進んだ。しかし、決勝の大阪体育大戦では63-64と1点差で敗れ、準優勝となった。決勝は開始1分、ゲームキャプテンを務めた古谷早奈(同2年)が幸先よく先制点を決めた。積極的な攻撃でシュート機会を多く作り、20-18で第1クォーターを終えた。第2クォーターは相手に押される展開で始まったが、古谷や朝比奈のシュートで巻き返し、39-34とリードを保った。第3クォーターも50-42と優勢のまま第4クォーターに入ったが、相手の猛攻に押され、残り2分23秒で58-59と初めて逆転を許した。残り24秒で上野心音(同1年)がシュートを決め、63-61と勝ち越したが、終了5秒前にスリーポイントシュートを決められて、再逆転を許し、惜しくも準優勝に終わった。古谷は準優勝は悔しい。キャプテンを務めて学んだリーダーシップや、明るく盛り上げられるチームの雰囲気は次につなげたい」と語った。



初代王者となった男子バスケットボール部

=男子バスケットボール部提供

梨学院大戦を91-86と順調に勝ち進んだ。しかし、決勝の大阪体育大戦では63-64と1点差で敗れ、準優勝となった。決勝は開始1分、ゲームキャプテンを務めた古谷早奈(同2年)が幸先よく先制点を決めた。積極的な攻撃でシュート機会を多く作り、20-18で第1クォーターを終えた。第2クォーターは相手に押される展開で始まったが、古谷や朝比奈のシュートで巻き返し、39-34とリードを保った。第3クォーターも50-42と優勢のまま第4クォーターに入ったが、相手の猛攻に押され、残り2分23秒で58-59と初めて逆転を許した。残り24秒で上野心音(同1年)がシュートを決め、63-61と勝ち越したが、終了5秒前にスリーポイントシュートを決められて、再逆転を許し、惜しくも準優勝に終わった。古谷は準優勝は悔しい。キャプテンを務めて学んだリーダーシップや、明るく盛り上げられるチームの雰囲気は次につなげたい」と語った。

